

生活科

生活科における令和5年度の授業改善推進プランの検証

取り組みの成果と課題

〔成果〕

- 花（アサガオ、チューリップ）や野菜（ミニトマト等）の栽培の常時活動や ICT の活用、調べ活動などの手だてによって、自分と自然とのかかわりや自然の特徴に関心をもつことができた。
- 友達との交流活動を通して、互いに協力し合う態度を養うことができた。また、1・2年合同の学校探検・生活科見学・2年生のおもちゃランドでの交流を通して、異学年交流活動ができた。
- 学校探検や町探検、お店探検、生活科見学を通して、自分と自然とのかかわりや自分と身近な人々、社会とのかかわりについて気付くことができた。

〔課題〕

- ▲幼稚園、保育園との交流が十分にできなかった。
→令和6年度は、単元に応じて交流を実施する。
- ▲児童が自ら気付き表現するために、観察の視点（色、形、大きさ等）を提示し続けることが必要であった。
→令和6年度は、観察カード等にも、観察の視点を明記するように改善を図っている。

生活科における課題

- ① 交流や見学・体験を通して、自分と自然とのかかわりや自分と身近な人々、社会とのかかわりで生まれた気付きを、より質の高いものにすること。
- ② 創意・工夫する力を伸ばすこと。

生活科における改善策

- ① 気付きを、より質の高いものにするために、国語科と連携した言語活動を行う。

- ・学校生活を支えている人々、友達、異学年児童、保育園、地域の人々、保護者等との交流活動を中心にした単元を設定し、発達段階に応じた言語活動の機会を必ず設ける。その際に、国語科の話す・聞く活動、書く・読む活動とも関連付けできるようにする。
- ・活動中の児童のつぶやきや、考えをまとめるための付箋、まとめやふり返りの成果物などから、対象に対するよさや自分とのかかわりについての内容を取り上げ、全体に広げて深める展開を入れる。

- ② 創意・工夫の力を伸ばすために、場の工夫や展開の工夫をする。

- ・教師が教えるべき指導事項を明確にした上で、児童が活動に取り組めるような作成のための材料や見本を準備する。
- ・活動のめあてに合わせた工夫の観点を明示する。
- ・単元の導入の時間に、全体で活動を考える「わくわくタイム」の時間を設定し、児童の思いや考えが学習に反映できる場を設定する。